

山形県
ことばを育む親の会
会報
第20号
平成20年7月

これからの親の会活動について

会長 武田信博

今年四月一日、「全国親の会」と「NPO法人全国ことばを育む会」は、三年間の準備期間を経て統一され、新たに法人格としてスタートいたしました。山形県親の会も「全国ことばを育む会」の会員になります。これまでの任意団体から、より信用のある発言力を増す団体となりましたが、その分会の運営には法規や規定に則って責任ある活動が求められております。土屋理事長のもと新体制での船出となりますが、これまでも増して活発な活動が期待されます。

山形県親の会も六月の代表者会で今年度の事業計画、予算が承認されました。昨年までは全国大会開催に全力を傾けてまいりましたが、今年度からは本来の親の会活動にもどれます。大会まで頑張ってくださいました役員の方のご退任には寂しさを感じますが、山形県親の会も新体制での新たな出発となります。

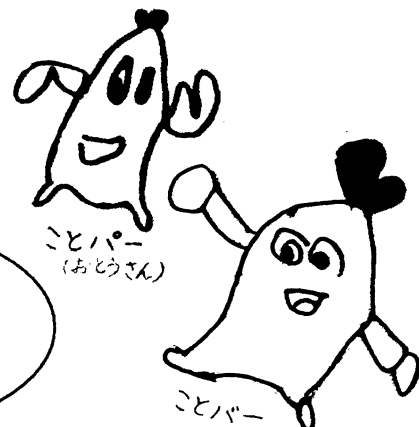
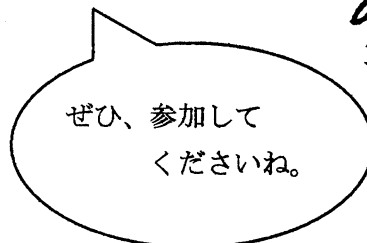
会の運営の基本方針としては、研修する親の会、より身近でリアル感のある親の会を目指します。会員の皆様には会報を通じて素早く情報をお伝えしたいと考えております。今年度もよろしくお願いたします。



6月14日に行われた県親の会代表者会

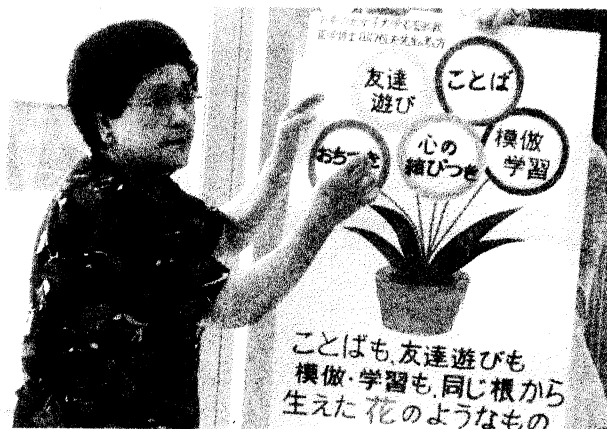
平成20年度の活動計画

- ・6月14日 研修会 —— 講師：藤田圭子先生
代表者会
- ・10月24日 研修会 —— 講師：中川信子先生
- ・リーフレット作成
- ・会報 めぶき発行



山形市教育委員会に 要望書を提出

5月19日(月)に武田会長、高山美和、松崎幸子の3人で山形市教育委員会教育長後藤恒裕教育長に要望書を提出いたしました。教育長、白鳥樹一郎事務局次長と要望書の内容について話し合いを行いました。



(6月14日研修会の様子)

お願いしたこと

- 1 ことばの教室について、小学校によって保護者への周知がまちまちなので、少なくとも低学年の保護者には、チラシ配布などにより周知を徹底していただきたい。
- 2 ことばの教室担当の先生方の専門性を高めるための研修を、これまで同様に継続し、更なる充実をしていただきたい。
- 3 指導のために必要な教材・教具・教室環境の整備について、担当の先生方から要望があった場合は、ご配慮していただきたい。
- 4 幼児の教室担当者の専門性を高めるための研修を、これまで同様に継続し、更なる充実をしていただきたい。
- 5 幼児の教室に通う子どもに必要な指導時間の確保をお願いしたい。
- 6 小学校卒業後も通級が必要な子どもの、小学校のことばの教室への通級としての受け入れをお願いしたい。
- 7 要望の内容によっては、県や国、あるいは他の部署に要望していかなければならないものもあるが、子どもの早期改善・ニーズに応じた言語通級指導の推進をぜひともお願いしたい。

藤田圭子先生のお話を聞いて

先日は「コミュニケーションの力を育てる親子のかかわり」について、藤田圭子先生のお話を聞きました。働きながら、障がいを持って生まれた息子さんを悩み苦しみながら、まわりの人の力も借りて立派に育てあげた事にとても感動しました。

次に、ことばの教室の先生としての経験から、子どものことば、遊び、学習、心の結びつきなどは子どもの心の発達の中でつながっており、親子のスキンシップは安心感を築き上げ、心の発達には大変重要であることを教えて下さいました。自分の事をふり返ってみますと、不安が強くスローペースな娘に対し、ゆとりを持って接していなかったように思います。もっとも娘を認めてあげ、0才からの育児をやり直し、安心感を得て自信を持って行動できる日まで見守っていこうと強く思いました。

(山形市 Sさん)



山形市教育長との話し合い

県親の会に関するお問い合わせは

・山形第一小学校ことばの教室内

工藤英子教諭

023-622-0654

・松崎幸子

023-681-3016

めばあ

山形県
ことばを育む親の会
会報
第22号
平成20年11月

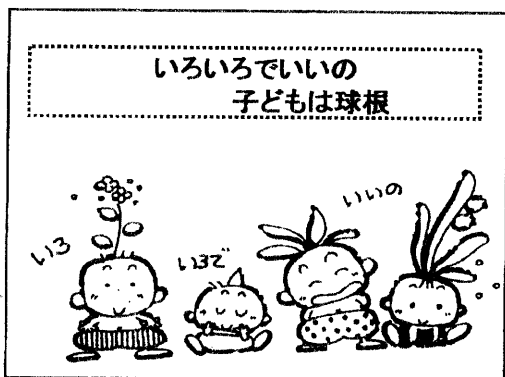


子どものこころとことばの育ち
思春期に突る子育てのために

中川信子(言語聴覚士)
NPO法人「ことばサポート」副理事長
子どもの発達支援を考えるSTの会 代表

10月24日
山形市学習センターにて
中川信子先生を講師に迎え
研修会を開催しました。
子育てが、らくになるヒントを
たくさんもらいました。

困ったことがあったら
ひとりで悩まないで、
相談できる機関を
調べておくといいね。



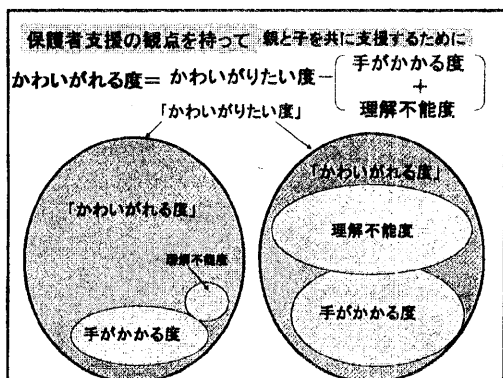
みんなで支えて (^.^)

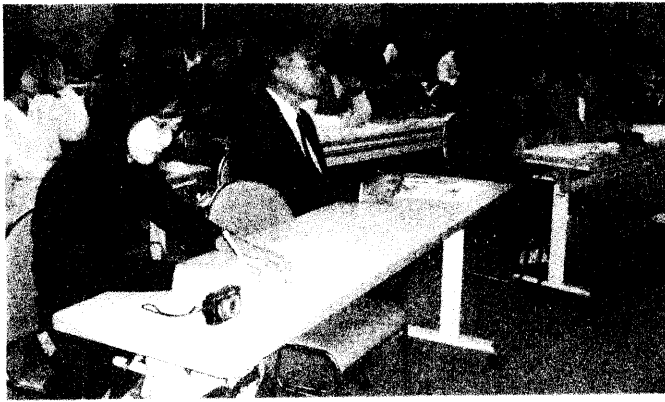
機関同士も支え合い (^_^)☆

一か所だけでがんばらなくても
いい仕組み \ (^o^)/

お母さんは、誰でも、自分の子どもが大好き。
いっぱいかわいがってあげたいと思っている。
でもその子が、「どうして、こんなことするの?」と
理解できないことをしたり、手がかかったりすると、
育児に疲れてしまって、子どもをかわいがりたい気持ちが
そのぶん薄れてしまう……。

そうならないために、子育てを一人で背負わないで、
地域の機関や人材から説明・助言・支援を受けることで
理解不能度と手がかかる度を小さくしていくことが大切。





子どもにとってうれしいかわり

- 1 ゆっくり はっきり くりかえし
- 2 短い文で 大事なことを強調する
- 3 注意喚起してから声をかける
一斉超えかけのほかに「〇〇ちゃん」
- 4 大きな声より近づいて小さめの声で穏やかに calm close soft
- 5 静かな環境

障害があってもなくても 子どもに望ましい育て方は共通です

- ★体が元気
- ★ところがすこやか
- ★「安定・安心」が守られていること

「ことばのビルを建てる暮らし」

ふつうの暮らしをていねいに

どうしてわからないの、となげくより、
どうしたらわかるかな、と
考えて子どもとむきあうほうが、
子どもにちゃんと伝わるよ



ことばが育つ土台づくりを大切に

「困った子」ではなく「困っている子」

- ・困っている子 = 支援が必要な子
- ・どの子もみんな何らかの支援が必要な子
- ・「対処」「指導」よりも「理解」すること
できないことを叱られるのではない、できそうなことをさせてもらい、できたことをほめられる

ことば

口角をあげると、
顔は自然と笑顔になる
さあ、あなたもやってみよう！

ことばかけのヒント 子どもとの楽しい話し方

① 笑顔と、明るい声



② 子どもの名前は歌うように呼ぶ



県親の会に関するお問い合わせは

- ・山形第一小学校ことばの教室内
工藤英子先生 023-622-0654
- ・松崎幸子 023-681-3016